

1. 作業名 (機械・設備)	2. 危険性又は有害性と発生のおそれのある災害	3. 既存の災害防止 対策	4. リスクの見積り				5. リスク低減措置案	6. 措置案想定リスクの見積り			7. 対応措置		8. 備考 (残留リスクについて)
			頻度	可能性	重篤度	リスク		頻度	可能性	重篤度	リスク	対策 実施日	
荷下ろし (建設廃棄物)	荷下ろし作業時、車両運転手が後方確認を怠り、作業者が車両と廃棄物にはさまれる。	安全運転の励行	4	2	10	IV (16)	1	2	10	IV (13)			
荷下ろし (建設廃棄物・他固形物)	ユニック車で廃棄物を下ろしている時、アウトリガーの地盤確認が不十分であったため、アウトリガーが沈下し、車輛が横転して作業員が下敷きになる。	ユニック車の作業手順	1	2	10	IV (13)	1	1	10	IV (12)			
荷下ろし (廃油・化学)	トラックから荷下ろし中、ドラム缶が落下し蓋が外れて有害性蒸気が漏れ、作業員が中毒になる。	バンドの固定状態を確認	2	2	3	II (7)	1	1	3	I (5)			
荷下ろし (廃油・化学)	タンクレベルを確認せず、荷下ろしをして有害性廃棄物を漏洩し、有害性蒸気が発散し中毒になる。	表示パネルにて確認	2	4	3	III (9)	2	1	3	II (6)			
荷下ろし (廃油・化学)	フォークリフトで積荷のフレコンバッグを吊り上げて荷下ろし中、吊り紐が切れて落下し、玉掛け作業員にあたり、全身を打撲する。	作業標準化	2	2	6	III (10)	1	1	1	I (3)			
荷下ろし (廃油・化学)	ユニック車でフレコンバッグを吊り上げていた時、吊り荷が揺れ、玉掛け作業員が運転台とフレコンバッグに挟まれ腕を打撲する。	作業標準化 (吊り荷の下には入らない)	2	2	3	II (7)	1	1	1	I (3)			
荷下ろし (廃油・化学)	フォークリフトでドラムを荷下ろす時、ツメの咬み込みが甘く、ツメから外れ通行者がドラム缶の下敷きになる。	フォークリフト移動時は近寄らない	4	4	6	IV (14)	1	1	6	II (8)			
受け入れ (廃液)	廃液を保管タンクへ移送する時、酸タンクへ移送すべしものをアルカリタンクへ移送したため、反応ガスが発生して作業員が中毒になる。	作業手順書で移送手順を明確	2	4	10	IV (16)	1	2	10	IV (13)			
受け入れ (廃液)	保管していたポリ容器が倒れ、作業員がこぼれた廃液で足に薬傷を負う。	指差し呼称で確認	2	4	3	III (9)	1	1	3	I (5)			
受け入れ (廃液)	廃液を中間処理施設にポンプにて移送している時、移送配管が破損し、液が飛散、保護具を着けていない作業員が薬傷を負う。	・移送配管は点検チェックリストによる管理 ・保護具着用の義務化	1	4	6	III (11)	1	2	6	III (9)			
受け入れ (汚泥)	ガロン缶等の廃棄物を汚泥槽に投入する際に、足が滑って汚泥槽に転落し、おぼれる。	作業姿勢を注意	4	2	10	IV (16)	2	2	3	II (7)			転落防止枠の破損状況を定期的 に確認する。
受け入れ (汚泥)	ガロン缶の開封時に、ガロン缶をカッターで切った後、切り口で手を負傷する。	ゴム手袋を着用	4	2	3	III (9)	2	1	3	II (6)			
受け入れ (建設廃棄物)	積荷確認中に係員が荷台を覗き込む時、足掛けが狭いので、足を滑らし腰・膝を打撲する。	作業のKY実施	4	2	3	III (9)	1	1	1	I (3)			